

監事の監査報告書

2013年8月23日

大学評価コンソーシアム総会

代表 小湊卓夫 殿

監事

田中 弥生



私、監事は、全国大学評価者コンソーシアム（以下、コンソーシアム）の2012年度（2012年9月8日から2013年8月23日まで）の業務について監査を実施しました。

その結果につき、次のとおり報告します。

1. 監査方法の概要

私たち監事は、理事の業務執行の状況に関する監査（業務監査）に当たっては、幹事会への出席や諸活動の視察を行い必要と認める場合には質問を行いました。

2. 監査の結果

コンソーシアムの活動については、団体の会則および年度計画・事業計画等に基づき、適正に執行されていると認めます。

以上

別添

1. 組織の目的と活動内容

全国大学評価者コンソーシアム（以下、コンソーシアム）は、組織の目的として以下3点を掲げている。

- 1) 評価を通して、大学の教育、研究、諸活動の充実につなげるための支援を行う。
- 2) 実践を基本として、役に立つ知識・スキルの共有や、事例の分析を行う
- 3) 評価に携わるすべての人（大学、評価機関、政府等）に役に立つ活動とする。

コンソーシアムは、上記目的に基づき、年間の行動計画として、以下2つを掲げた。

行動計画1：大学評価に携わるすべての人が「評価」という取り組みを通して、大学の改善を図っていくための理解を深めるための支援を行う。

行動計画2：評価人材の能力・スキルを明らかにし、評価人材が大学の改善のために効果的な支援が行えるような具体的なテーマを設定し、目的を明確にした評価人材の育成、資質の向上を図る。

2012年9月8日より2013年8月23日の活動結果は以下の通りである。

- ・IR実践に向けた数量データ分析に関する勉強会（21名参加）：2013年5月9日
- ・大学評価担当者集会2013開催（132名参加）2013年8月22~23日

2. 監事の所見

- ・活動内容については、大学評価の、特に現場の課題を適切に捉え、その解決に向けた活動を計画し、実施していると思われる。
- ・今後も、より多くの参加者を受入れ、活動を発展させてゆく必要があるが、有志による任意団体として運営していることから、運営関係者のモチベーションを維持するためにも積極的な意思疎通が重要となる。
- ・また、会員数や参加者が増加傾向にあるが、これらの構成員に対する透明性や説明責任を負うことから運営の基礎的基盤を整える必要がある。

具体的には、

- ・年度の開始日と終了時を明確にする必要がある。
- ・また、年間活動計画とその実施状況については書式を整え、閲覧可能なように据え置くか、電子媒体などを通じて管理する必要がある。